

登録コード	L2220200	開講年度	2026	
担当教員	葛西 敬之	副担当		
授業科目	ドイツ言語文化概論Ⅱ			
英文授業名	German Language Culture: Introductory II			
授業タイトル				
単位数	2	対象学生		講義期間 前期 曜日・時限 木曜・3時限
講義室	人文第1講義室	遠隔授業科目		読替科目 読替科目は履修案内を確認すること
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		⇔	【授業の達成目標】
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ			
	【2022年度以前カリキュラム対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多面的に判断することができる受容力		⇔	おそらく多くの受講生にとって異質なものを多分に含む外国文学を、歴史・文化的背景とともに解釈し内面化することで、ある事象に対してより多面的に思考することができるようになる。
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ			
	【2023年度以降カリキュラム対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】		⇔	おそらく多くの受講生にとって異質なものを多分に含む外国文学を、歴史・文化的背景とともに解釈し内面化することで、ある事象に対してより多面的に思考することができるようになる。
授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働			
全学横断特別教育プログラム				
授業の概要	主に17世紀から現代まで、必要な文化的・歴史的背景を解説し、様々な文学作品の意味を考察します。また適宜、参考資料も用い、文化と文学の関係をより深く考察します。同時に作品の抜粋を日本語及びドイツ語で取り上げ、具体的に説明します。			
授業計画	ドイツ語圏近現代文学を、文化的・社会的背景を含めて解説します。 第1回 導入 第2回 バロック期、啓蒙期の文学 第3回 ゲーテ（『若きウェルテルの悩み』、『ファウスト』） 第4回 ヴァイマル古典主義、シラー（太宰『走れメロス』との比較） 第5回 ロマン主義、グリム童話 第6回 さまざまなメルヒェン 第7回 クライスト 第8回 幻想文学と推理小説 第9回 世紀転換期 第10回 戦争と文学 第11回 カフカ 第12回 反省と批評 第13回 ヴァルザー 第14回 翻訳 第15回 期末試験、授業アンケート 受講生の関心に応じて扱うテーマが多少変更することがあります。また数回程度オンデマンド授業となる予定です。			
成績評価の方法	授業後に毎回提出するリアクションペーパー40%、期末試験60%の比率で総合的に、ドイツ語圏文学についての理解度を評価します。			
成績評価の基準	リアクションペーパーには、各授業の初めに設定される問いへの答えを書いてもらいます。ドイツ文学に関する知識や解釈を問う期末試験（60点満点）においては、55点以上で卓越している、50点以上でかなり上にある、45点以上でやや上にある、40点以上でその水準にある、とします。			
事前事後学習の内容	ドイツ語圏の歴史を復習しておくこと。 指定した作品や資料などは事前に読んでおくこと。			
履修上の注意	ドイツ言語文化概論Ⅰを履修していなくても、本授業の履修は可能です。 ドイツ語文法の知識が無い方でも履修可能です。			
質問、相談への対応	メールで受け付けます。メールアドレスはeALPSに記載します。			
教科書	使用しません。			
参考書	・手塚富雄、神品芳夫著『増補 ドイツ文学案内』岩波書店、2006年 ・畠山寛ほか編著『ドイツ文学の道しるべ ニーベルンゲンから多和田葉子まで』ミネルヴァ書房、2020年			